７．　日本国内留学生・オーストラリアの学生を対象とした着物文化発信の実践

－着物を彩る伝統模様を用いたワークショップの実践結果より－

○福田幼子(横浜国立大学大学院生)・薩本弥生（横浜国立大学）

1.　はじめに

国際化が加速する現代で自国の文化を発信したり、他国・多民族の文化を知ることは、異文化間の相互理解において不可欠である。今回、研究室の「海外への着物文化発信プロジェクト」の一環で行うワークショップの内容の一部として、着物に描かれる伝統模様を題材とした授業を新たに開発し外国人学生を対象に実践した。模様は非言語・美術的表現であるため、幅広い解釈が可能となる。伝統模様は長い歴史を経た奥深さと同時に自然の賛美、幸福への祈りといった人類共通の想いも表現される。着物に描かれる模様の美しさと奥深さを感じ背景知識を得ることで、異文化の中にも共感の心が芽生え着物文化への理解が深まることねらいとし実践した。その結果を検証する。

2.　研究方法

国内・オーストラリアの 4 校の学生を対象に、着物文化発信ワークショップでのプログラムの一部として、伝統模様を題材とした授業を行った。これは、12~22 種類の伝統模様(松竹梅、亀甲など)の図と模様の由来・由来を記載したカードまたはリストを生徒に配布し、礼装用の着物の図柄を見ながら模様を探した後、意味を確認するといった内容のワークである。実施校の詳細・プログラムの構成は表 1 の通りである。

表 1　実施校

略号	対象(開催国)	年齢(歳)	参加人数	ワークショップのプログラムの構成
YCS	横浜国立大学留学生(日本)	不明(推定 20 歳前後)	16	● 着物の概要説明 ● 浴衣着装ワーク ● 模様の説明 ● 模様ワーク：模様カード・実物着物を使用
IPS	Ipswich 市 I 女子中・高校*(オーストラリア)	12－17	49	● 着物の概要説明 ● 振袖着付のデモンストレーション ● 模様の説明 ● 模様ワーク：模様一覧と実物着物/着物写真併用
UTS	シドニー工科大学(オーストラリア)	18－29	39	● 着物の概要説明 ● 模様の説明 ● 模様クイズ：模様一覧と実物着物を展示 ● 浴衣着装ワーク
SGH	Sydney Girls High school*(オーストラリア)	14－16	26	

*第二外国語として日本語を専攻する生徒が参加
(IPS を除く 3 校は研究室プロジェクトの一環であり、浴衣着装がワークショップの核となる)

授業実践後、アンケート調査を実施しその回答内容を分析し、授業の効果を検証した。アンケート内容は 2 項目(①好きな模様を 1 つ選択し名前(および図)・選んだ理由を記述、②授業の感想を記述)であり自由記述形式で調査した。有効回答者数、YCS:16 名、IPS:49 名、UTS:36 名、SGH:26 名を得た。

3. 結果・考察

【生徒が選択した模様】生徒が選んだ模様を 4 分類([自然][動物・昆虫][器物][幾何学・その他])し、集計した結果、[自然](例:桜、松、青海波など)の模様を選ぶ生徒が多く、各校 50%を超えた。自然は人類共通の価値があり外国人にも共感される模様であると考えられる。

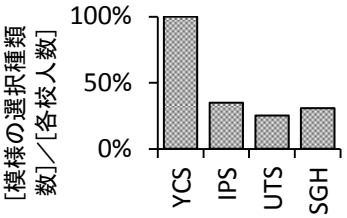

図 1 模様種類数と人数の比

【選択された模様の種類数の人数比と、選択理由】

「各校の人数」に対する「選択された模様の種類数」の比を図 1 に示す。YCS では全員が異なる模様を選択した。その他の学校では、同じ模様を複数人選択している。模様の選択理由を 5 分類([R1:デザインの好み][R2 模様の意味に共感][R3:模様に個人的想いを連想][R4:自然の表現に共感][R5:その他])し、集計した結果を図 2 に示す。理由 R1 を記述した生徒が SGH で特に多い。SGH では模様を観察する時間が少なかったため、多くの生徒が見た目のデザインの嗜好での観察にとどまったと考えられる。YCS,IPS ではワーク形式で、模様を主体的に観察し、観察時間が UTS,SGH より長い授業形態のため、理由 R2・理由 R3 の割合が UTS,SGH と比較して高いと考えられる。YCS では最も丁寧に模様を観察する授業形態であったため、デザイン、模様の意味に加え、個人的な想いを連想するという捉え方が認められ、図 1 に示す通り生徒全員が異なる模様を選択したことと合わせて考えると、生徒がより自己の内面で模様を捉え、選択した模様に個性が表現されたことが伺える。一方で理由 R2 の割合は YCS・IPS で 50%以上、UTS・SGH で 25%以上であり、模様の意味に共感を覚える生徒も各校で一定数認められた。

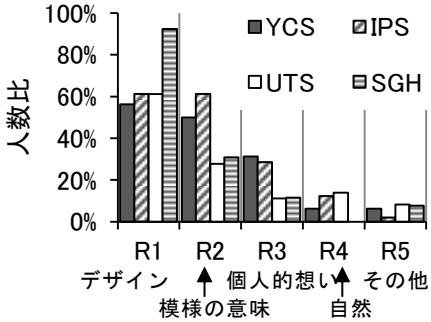

図 2 模様選択理由（複数回答）

【授業全体の感想の記述】記述のキーワードを抽出し内容を分析し内容ごとに分類した。その結果、内容分類[これまで知らなかった模様の背後の意味を知った/知って楽しかった]の記述が、人数比で YCS:69%, IPS:14%, UTS:6%, SGH:0%みられた。[着物・日本文化の知識が広がった]が、YCS:69%, IPS:10%, UTS:17%, SGH:35%みられた。

- *生徒の感想例:It is very interesting to know how close the Japanese tradition with the nature. A part from that, I am also a bit surprised to know that every patterns has its own meaning (UTS).*

一部の生徒において、模様の学習を通じて背景知識を得たことが「気づき」になり着物文化や日本文化への理解が深まった様子が伺えた。

4. まとめ

着物の模様を題材とした教材を開発し授業実践した結果、授業形態により理解の深度は異なったが、一定数の生徒が模様の背景にある意味に共感を覚える様子が伺えた。外国人が異文化である着物文化や日本文化を理解することにつながる手ごたえが感じられた。